

福祉村病院（一九八二年～）

福祉村病院は、福祉村をご利用の皆様の健康を守り、彼らの自立度を高めるのを第一の目標としていますから、最初の第一病棟（一〇五床）は、脳卒中とリウマチのリハビリを主眼として、一九八二年に建てました。

第二病棟（二八六床）は、全国から殺到する認知症の患者さんを、東雲町の山本病院（一〇八床）だけでは、受け入れできなくなっていましたので、認知症専門の病棟として、一九八四年に作りました。

一階は認知症のすべてのリハビリを実施するために必要な設備を整え、二階から六階までを病床にしました。

病床の各階の色をすべて変えて、患者さんに覚えやすくし、トイレの前だけ廊下の色を変えたり、トイレの門灯は二十四時間つけっぱなしにして、トイレの位置を患者さんに分かりやすく表示いたしました。

また、トイレから大便を持ち出して食べないようにするために、患者さんが排泄を終えて立ち上がったら、すぐ自動的に便を流してしまう装置もつけました。

廊下は、もちろん、回廊式ではなく、廊下の突き当たりには、患者さんが腰掛けて休めるように、長椅子を置きました。

二〇〇一年に厚生省が、突然、病院の建築基準を変更したために、山本病院の廊下の幅が2 ㊦足りなくなって、病院として使えなくなりました。

入院中の患者さんは、すべて重症の認知症の方々ばかりですから、どこの病院も受け入れていただけませんから、福祉村病院の南にあったパターゴルフ場をつぶして、そこへさくら通り病棟（九十六床）を二〇〇二年に作り、皆さんにこちらへ移っていただきました。

山本病院は、職員寮とともに取り壊してしまいました。